第2章　鎌倉市の維持及び向上すべき歴史的風致

1　鎌倉市における歴史的風致の概要及び分布状況

「歴史的風致」とは、歴史まちづくり法において「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地が一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義されている。そ本計画における歴史的風致の設定にあたっては、①地域固有の歴史及び伝統を反映した活動が現在行われていること、 ② ①の活動が歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地で行われていること、③ ①の活動と②の建造物及びその周辺の市街地が一体となって良好な市街地環境を形成していることの３つの条件を満たしているものとする。

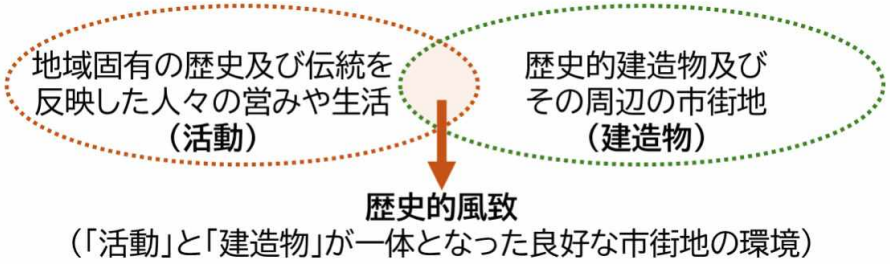


図2-1　歴史的風致の概念図

鎌倉においては、武家政権の発祥に起因する都市形成の歴史の中で、社寺や近代に建てられた和風や洋風の建築物など、様々な歴史的遺産が生まれた。その多くは幕府が置かれた鎌倉地域に点在し、層を成して重なり合う複数の歴史的風致の核となっている。

特に、鎌倉幕府の成立以降、各時代の為政者（いせいしゃ）などによって盛んに建立された社寺は、現在に至るまでの時の流れとともに、「生きている歴史的遺産」として現在も宗教活動を続けており、鎌倉を代表する歴史的風致を形成している。

鎌倉幕府滅亡後の鎌倉の歴史を辿ってみると、康正元年（1455年）以降、鎌倉公方の足利氏が鎌倉支配を放棄したことなどによってまちは衰退し、かつての中世都市の活気は失われ、静かな農漁村へと変わっていった。今日行われている沿岸漁業は、この頃より続く生業（なりわい）の一つであり、大漁や海の安全を願う伝統行事には、社寺の存在が欠かせない。

江戸時代に入り、泰平の世が続くようになると、それまで信仰の対象であった鎌倉の社寺は、参詣を兼ねた遊山の対象としても認知されるようになる。鶴岡八幡宮参道の若宮大路は遊山客で大いに賑わいを見せ、若宮大路以外の社寺・眺望点なども名所として人気を博し、周遊観光の経路も定番化していった。明治時代に入ると、周遊観光に関わる鉄道として江ノ電が開通する。

また、明治時代から大正時代にかけ、避暑・避寒・保養の適地として知られるようになった鎌倉では、この地に別荘を構えた人々の中で生まれた価値観が知識、道徳、習慣、作法、生業、芸術といった鎌倉に住む人々の精神や営みに大きな影響を与えるようになり、まちの発展に寄与することとなる。こうして形成された文化や暮らしと、鎌倉の社寺や豊かな自然が織りなす歴史情緒あふれる風景は、多くの人々を魅了した。これらの別荘文化を支えた人々の営みは今も形を変えながら続いており、また別荘建築物が保存・活用され

ることで、鎌倉の別荘文化を今に伝えている。

戦後、都心近郊のベッドタウンとしての需要が高まると、鎌倉の象徴ともいえる鶴岡八幡宮の裏山で宅地造成の計画が持ち上がり、古都の景観を守るために立ち上がった住民等によって、後に「御谷（おやつ）騒動」と呼ばれる日本初のナショナルトラスト運動が展開された。古都保存法が制定されるきっかけとなったこの市民運動の精神は、現在も市民を中心とした人々の間で引き継がれており、山稜部の緑を保全する活動などが市内各所で展開されている。

本計画において本市が維持向上すべき歴史的風致は、『鎌倉市歴史的風致維持向上計画（第１期）』の６つの歴史的風致に加え、新たに「鎌倉遊山にみる歴史的風致」を追加した、次の７つの歴史的風致とする。

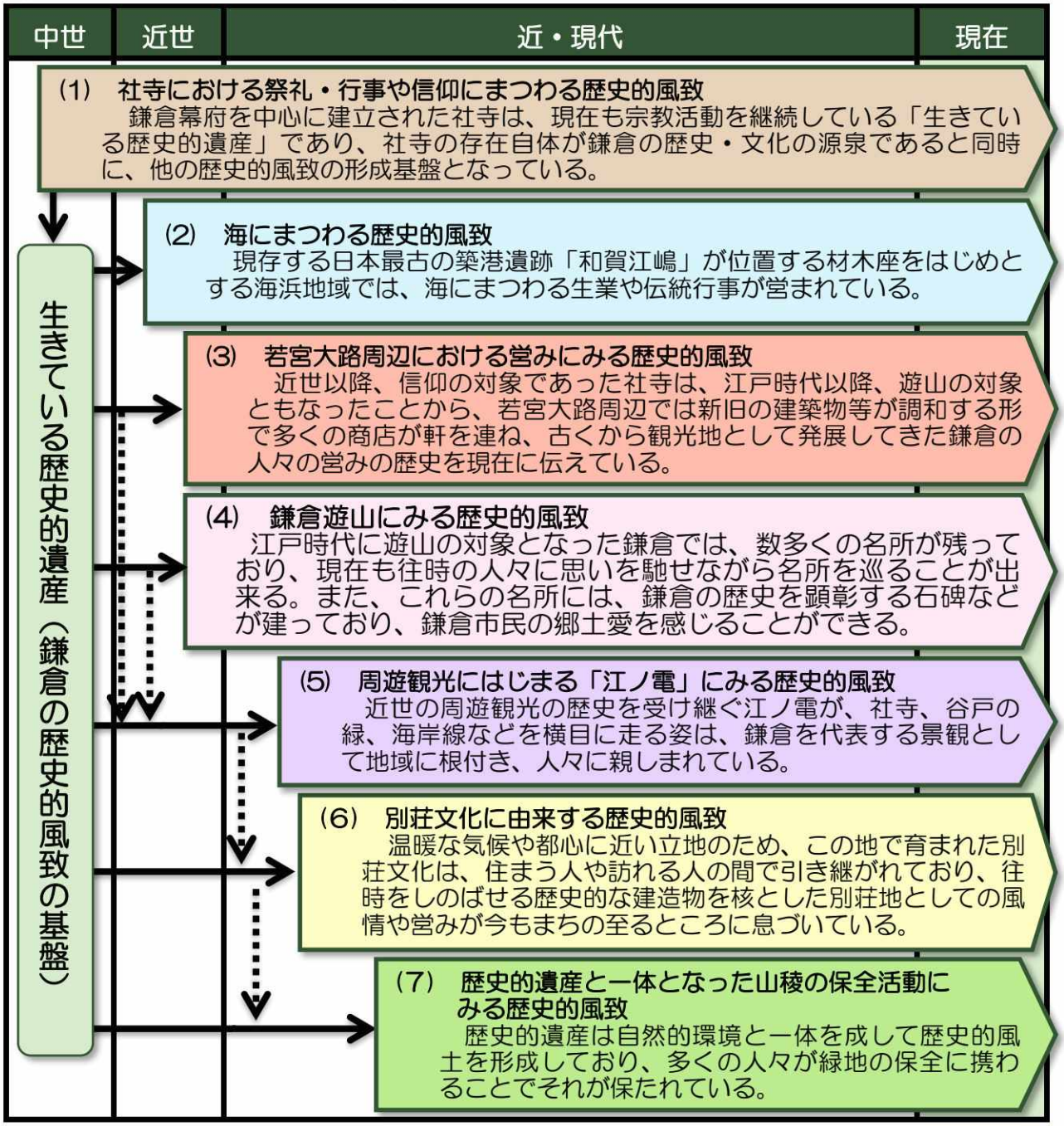
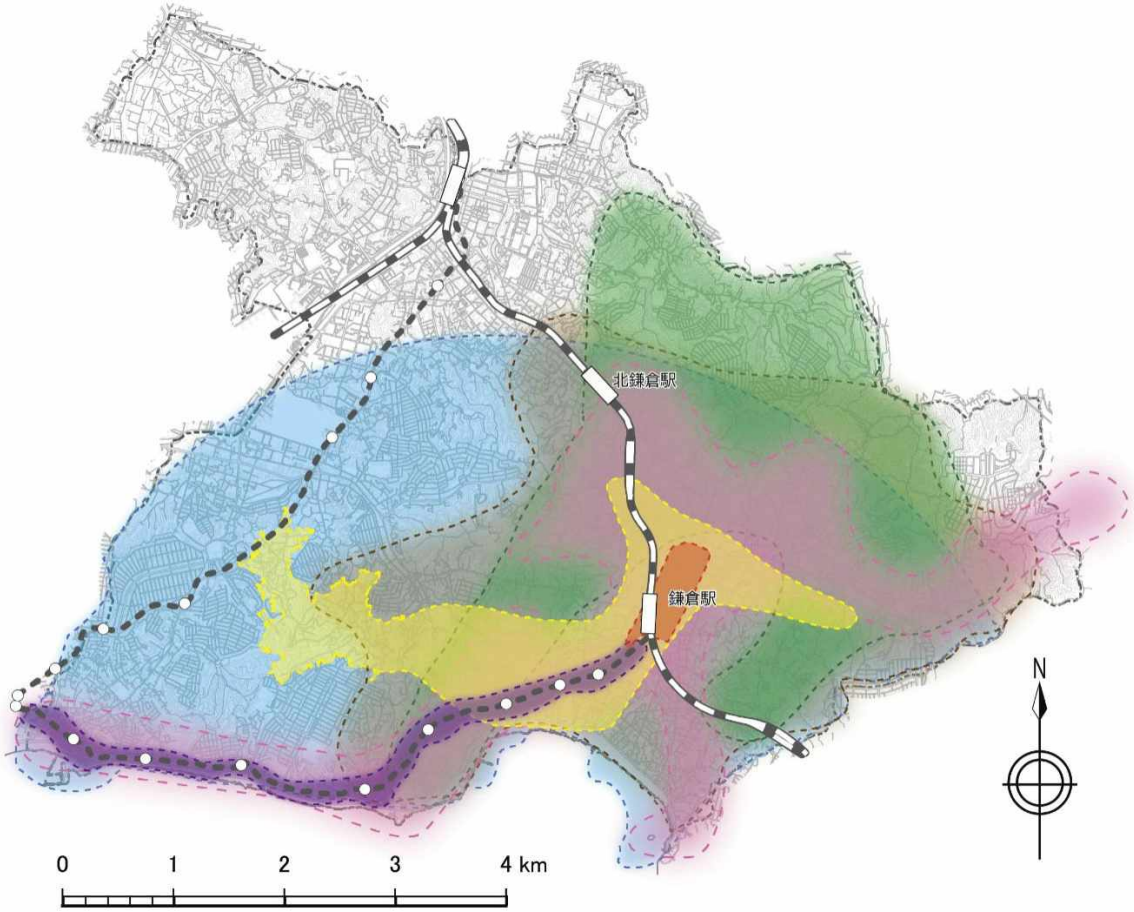


図2-2　歴史的風致の構成



	（1）社寺における祭礼・行事や信仰にまつわる歴史的風致		（5）「江ノ電」にみる歴史的風致
	（2）海にまつわる歴史的風致		（6）別荘文化に由来する歴史的風致
	（3）若宮大路沿道の営みにみる歴史的風致		（7）歴史的遺産と一体となった山稜の保全活動にみる歴史的風致
	（4）鎌倉遊山にみる歴史的風致		市域境界

図2-3　歴史的風致の範囲